

特殊肥料 発酵酵素肥料「B酵素」使用例

標準希釈倍率 葉面散布 1,000倍～2,000倍

土壌散布 3,000倍～5,000倍

標準使用間隔 7日～15日

標準原液使用量 100ml～200ml (10aあたり)

葉面散布 希釈液を、10aあたり、100L～200L散布が目安。
土壌散布 希釈液を、10aあたり、300L～1,000L散布が目安。
土壌灌水 原液を、10aあたり、100ml～200mlが目安。
液肥混入器などの灌水設備を利用する場合は、原液量を目安にしてください。

※以下の使用例は、土作りから収穫期までを通じて使用した場合の標準使用例です。
※実際の使用回数や細かい使用時期については、お客様の状況に応じて加減してください。

◆葉菜類への使用例 (キャベツ、ホウレンソウ、小松菜、白菜、ブロッコリー、レタス、ネギ、ニラ等)

土作り 10aあたり、原液量100～200mlを水で希釈して散布。播種・定植の7日前～前日まで。
播種時 種を1,000倍液に1～2分浸してから播種、または、播種後、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。
育苗期 本葉展開頃から、1,000倍液を7日に1回を目安に、2～3回葉面散布。
定植～収穫期 1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。5～10日に1回。

◆果菜類への使用例 (トマト、イチゴ、キュウリ、ナス、ピーマン、メロン等)

土作り 10aあたり、原液量100～200mlを水で希釈して散布。播種・定植の7日前～前日まで。
播種時 種を1,000倍液に1～2分浸してから播種、または、播種後、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。
育苗期 本葉展開頃から、1,000倍液を7日に1回を目安に、2～3回葉面散布。
イチゴは、ランナー取り時期から、1,000倍液を、10日～15日に1回が目安。
窒素中断から定植までは控える。
定植時 1,000倍液を葉面散布、または、根を1,000倍液に2～3秒浸けて定植。
生育期～収穫期 1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。月に2～4回が目安。

◆根菜類への使用例 (じゃがいも、さつまいも、人参、大根、ごぼう等)

土作り 10aあたり、原液量100～200mlを水で希釈して散布。播種・定植の7日前～前日まで。
植付時 種イモや種を1,000倍液に1～2分浸してから植付(播種)、または、植付後(播種後)、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。
植付～収穫期 本葉展開頃から、1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。月に2～4回が目安。

◆まめ類への使用例 (大豆、小豆、インゲン、枝豆、黒豆、エンドウ等)

土作り 10aあたり、原液量100～200mlを水で希釈して散布。播種・定植の7日前～前日まで。
播種時 種を1,000倍液に5秒程度浸してから播種、または、播種後、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。
育苗期 本葉展開頃から、1,000倍液を7日に1回を目安に、2～3回葉面散布。
定植～収穫期 1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10aあたり、原液量100～200mlを土壌散布(灌水)。月に2～4回が目安。

◆米・小麦・穀物類への使用例

土 作 り	10 a あたり、原液量100～200 ml を水で希釈して散布。または、20 L 程度に水で希釈して、水口点滴。播種・定植の7日前～前日まで。
播 種 時	種を1,000倍液に1日浸してから播種、または、種子消毒を行うときに1,000倍液を混用。
育 苗 期	緑化後、1,000倍液を7日～10日に1回を目安に、2～3回散布または土壌灌水。
本 田	10 a あたり、原液量100～200 ml を、20 L 程度に水で希釈して、水口点滴。 葉面散布の場合は、1,000～2,000倍液。 投入時期は、活着期、分けつ期、中干し後、幼穂形成期前、移植から収穫までに、2～4回が目安。

◆果樹類への使用例（ブドウ、リンゴ、梨、ミカン、桃、サクランボ等）

発 芽 前	1,000倍液を樹皮散布（葉面散布）。
発芽期～収穫期	発芽後、1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10 a あたり、原液量100～200 ml を土壌散布（灌水）。月に2回が目安。
収 穫 後	灌水設備などで、10 a あたり、原液量100～200 ml を土壌散布（灌水）。葉面散布の場合は、1,000～2,000倍液。翌期発芽期までに、1～2回が目安。

◆花卉類への使用例（菊・カーネーション・ラークスパー等）

土 作 り	10 a あたり、原液量100～200 ml を水で希釈して散布。播種・定植の7日前～前日まで。
播 種 時	種を1,000倍液に1～2分程度浸してから播種、または、播種後、灌水設備などで、10 a あたり、原液量100～200 ml を土壌散布（灌水）。
育 苗 期	本葉展開頃から（八重選別後）、1,000倍液を7日に1回を目安に、2～4回葉面散布。
定植～収穫期	1,000～2,000倍液を葉面散布、または、灌水設備などで、10 a あたり、原液量100～200 ml を土壌散布。月に2～3回が目安。

◆鉢物での使用例（洋ラン・胡蝶ラン・バラ・観葉植物等）

2,000倍で葉面散布、または、土壌灌水。7日に1回が目安。

◆水耕栽培での使用例

2,000倍で葉面散布、または、B酵素の水中での濃度が、5,000倍以上になるように投入してください。
1回あたりの使用量の目安は、10 a あたり、100 ml～200 ml。月に2～4回が目安。

◆挿し木での使用例

1,000倍に根の部分で2～3秒浸してから培地へ挿す。

製造元 (有)サンジェットアイ

最終更新日 2016/11/15